

03. Global Education 法学部のグローバル教育

グローバル化が進む世界を見据えて

世界を舞台に活躍したいという人はもちろん、近年では日本国内のグローバル化も大きく進んでおり、国内企業や法曹、公務員として働くうえでも国際感覚の修得は欠かせないものになっています。法学部では多様な留学制度をはじめとしたグローバル教育で語学力、異文化理解、国際比較、人権意識といった次世代の人材に必要な力を身につけます。

語学力や文化・社会への理解を段階的に高める学びの仕組み

法学部のカリキュラムでは通常の授業に加え、豊富な留学制度や研修プログラムを設置。実践的な英語力を身につけながら、国内外で有用な国際感覚を磨き上げていきます。

なぜ留学するの？

- 海外への興味があるから？
- 将来グローバルな仕事をしたいから？
- 将来海外で働きたいから？
- 語学を身につけるため？

答えは… **今までとは異なる種類の経験をして、視野を広げて、人生の選択肢を増やすため**

グローバルなことへの関心が目的とは限りません。国内で働こうと思っている人にも、役立つ経験ができます！



約1年間の留学生活を通して自分自身の価値観や背景が客観的に見えてきました

留学先

Rhodes College (アメリカ)

入学後に関心を抱いたジェンダー学を学ぶため、アメリカのRhodes Collegeへ留学しました。学生数が2,000人程の小さな学校なので、少人数の授業で発言を求められることが多く、そこで学んだのは、「見解が不十分でも恐れずに自分の意見を述べること」でした。受け身でいるよりも、自ら積極的に言動するほうが得るものが多いと思います。授業の準備や課題に追われる日々でしたが、授業外ではキャンパス内のイベントに参加したり、休日は友人と映画を観るなど楽しく過ごしました。慣れ親しんだ日本とは異なる環境で生活する中で、自分自身の価値観や背景がより客観的に見えてきた、有意義な留学となりました。

3年 丸山 諒子
 [政治学科]
 雙葉高等学校(東京都)出身

海外スタディツアー

- オーストラリア法律短期留学
- EUの法と社会
- カンボジア法整備支援と社会開発

法は、社会の反映であるとともに、社会を変える力を持っています。各々の社会は、政治、経済、歴史、文化などが異なり、多様性がありますが、相互に影響しあい、共通の課題を見いだすことができます。大学で学んだ知見が現実の社会でどのように生かされているのか、見聞した課題が、大学での学びにどのように結びついていくのか、双方向の問題意識を比較の視点を持ちながら発展させ、日本の法と社会を相対的に観察し、主体的、批判的に事象を理解することを目指します。

短期海外プログラム

- ILOリサーチプログラム(スイス)

フィールドワーク・リサーチと体験学習を組み合わせたスタイルをとり、将来グローバルなキャリアをめざす学生に対して、理論と実践の両面における経験と学びの機会を提供するプログラムです。また重要な資質としてのプロアクティブな姿勢、批判的思考、アカデミック・リサーチ・スキルおよび実践的な語学力の修得を目指します。



グローバル・プログラム奨学金

グローバル・プログラム科目(海外スタディツアー、短期海外プログラム)を履修している法学部生を支援する全額給付型奨学金です。初めての留学でも安心して挑戦することができます。

半年間~1年間の海外体験でグローバルな視野を培う

交換留学・認定留学

長期の留学でじっくりと国際感覚を養い、世界で活躍するための力を身につけます。中央大学全体で展開する制度で、一部を除き留学先での修得単位が卒業単位に認定されるので長期留学を実施しても、4年間で大学を卒業することが可能な制度となっています。なお、中央大学では41の国と地域の212校(2024年1月現在)と学生交換協定を締結し、お互いの交流を深めています。

